近世以降の周防を中心に展開される楼拝殿の建築的・文化的特性の研究

早稲田大学　歴史研究室中谷研究室
1X18A151-6
山﨑 楽久

目次構成

【序論】
0-1 研究背景
0-2 研究の目的
0-3 研究方法
0-4 本研究の基礎情報
0-4-2 用語
0-4-2
0-5 既往研究と本研究の位置付け

【本論】
第 1 章 楼拝殿とは
1-1 はじめに
1-2 神社建築としての楼拝殿
1-2-1 神社における楼門
1-2-2 楼門から拝殿への変遷
1-2-3 楼造と楼造風
1-3 文化としての楼拝殿
1-3-1 大内氏による楼拝殿
1-3-2 江戸時代における楼拝殿の流布
1-4 小結

第 2 章 楼拝殿の調査
2-1 はじめに　　ベン図のはなし
2-2 調査内容　　実測カード
2-2-1 調査方法
2-2-2 調査対象の選定
2-3 調査結果・分析
2-4 小結

第 3 章 考察
3-1 はじめに
3-2 楼拝殿建築の電波についての考察
3-2-1 建立年、名称による比較
3-2-2 要素による比較 1
3-2-3 要素による比較 2
3-2-4 要素による比較 3
3-2-5 要素による比較 4
3-3 楼拝殿建築の電波についての考察
3-3-1「楼造」「楼造風」について
3-3-2 現代における楼拝殿
3-4 楼拝殿の定義についての考察　　新拝殿の提案
3-4-1 楼拝殿の実測
3-4-2 楼拝殿のプロット
3-5 楼拝殿の文化的広がりについての考察
3-6 小結

第 4 章 結論

序論
第０章

0-1　研究背景

神社の地域特性を調べる上で、山口県内に特徴的な拝殿形式が集中していることを知った。分布が大きく二つに分かれており、宗教や気候といった環境以外に神社建築様式の境界となる要素は何か疑問を持った。

0-2　研究の目的

山口県内の特定の地域には特異な形状の神社建築が見られる。

既往研究の収集と調査から
地域・年代による特徴と傾向を明らかにする。
それによって、建築様式（楼拝殿）の展開を明らかにする一助とする。

図１　楼拝殿の例

0-3　研究の方法

本研究では、既往研究にならい楼拝殿の地域的・時代的特徴を見つけ、要素の比較と分類により建築文化の展開について分析する。

①楼拝殿研究の整理
②現存する楼拝殿を検出
③調査により要素の
④要素の比較、分析

0-5　既往研究と本研究ん位置付け

内田伸「山口地方独特の神社建築〈楼拝殿造り〉」1980
楼拝殿を楼門由来の山口独特の社殿とし注目。
藤沢彰「山口地方の楼拝殿とその祭儀について」1988
資料の豊富な楼拝殿２社から楼拝殿成立を祭祀の都合上のものであると推測。
佐藤正彦「祭祀施設としての宇佐神宮南中楼門　九州における楼拝殿造の一考察」1994
九州北部に見られる楼造様の拝殿と山口の楼拝殿を比較。これらは似た特徴を持ち、分布域から室町時代に両地域を有した大名大内氏との関係性を指摘。
澤田亨「周防 , 長門 , 石見の楼拝殿の研究 - 楼拝殿の構造細部と細部意匠について -」1998
現存楼拝殿から室町 - 江戸時代間に空白機関が存在することを指摘。構造細部、意匠細部について共通する要素を発見し、その空白期間に楼拝殿文化の継承を確認。
中川明子 , 大來美咲「周南市内の楼拝殿に関する研究」2014
先行研究で知られていた楼拝殿分布域である周南市から、新たな５社を検出。

第１章　神社建築における楼拝殿

第１章では既往研究での楼拝殿の扱いをまとめる。

楼拝殿とは

「楼拝殿」は正式な建築様式ではないが、既往研究では「楼門の両側に翼廊をつけ、ともに床板を張ったもの」とされる。
楼門は社寺に使われる二階造りの門で、上層のみに屋根を架け、二階には高欄を廻らし､これを腰組で支える。元は仏教寺院を発端とする建築だが、室町時代頃各地の財力を持った豪族が豪華な拝殿を建立し発展したため神社にも建立されるようになったと考えられる。

楼門から楼拝殿への変遷

当初、門であるため通路空間を有したが、祭祀の都合上その空間に床板が設けられ、拝殿としての機能を得たとされる。

内田による研究では、権現造の成り立ちと比較された。

元来建築は、本殿・拝殿・神門とそれぞれ別々に建てられ、それをつなぐ建物はなかった。そのため祭儀をする上で野外では天候の影響を受けたと考えられる。

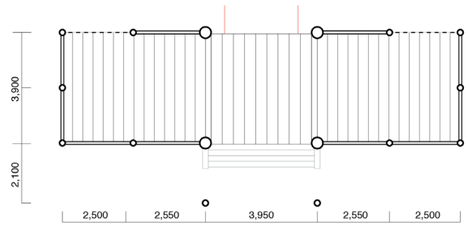

図２　今八幡宮平面図

楼造と楼造風

多くの楼拝殿は中央の４本の柱で楼をもち、その上に腰組で持って楼上階を支える。しかし、中央４本の柱をそのまま延長して屋根を持ち上階を省いた形式が半数以上見られる。澤田は、前者を楼造、後者を楼造風と２種に分類し、特に楼造風のものは江戸時代以降建立のものとした。

大内氏による楼拝殿建築

楼拝殿は、周防国大名大内氏統治時代に多く、大内氏の領地に見られることからその関係性が挙げられるが、専門的に扱った研究は存在しない。
佐藤は、宇佐神宮南中楼門、柞原八幡宮楼門（ともに大分県）に山口県の楼拝殿に類似した特徴を検出した。これは大内氏が旧豊前国をも支配したことにより成立すると推測した。

江戸時代における楼拝殿建築の流布

現存楼拝殿を建立年代で区分すると今八幡宮拝殿が 1503 年の作で最古である。その次に古い古熊神社拝殿が江戸前期の作で、行こう江戸時代に集中する。これらと今八幡宮との間に 150 年ほどの空白期間があった。澤田はこの空白期間に楼拝殿の技術・文化の継承が行われているか、構造・意匠細部の面から比較した。結果､文化継承が認められる要素に検出された。

第２章　楼拝殿の調査

既往研究では建築形態や分類が行われたが、それら要素の立地的傾向は明らかになっていない。また扱われる社殿が少なく、研究ごとに地域や時代が偏っている。本研究では全体的な楼拝殿文化の流れを掴むため、先行研究で扱われた全ての社殿を対象とし、

社殿の検出に、山口県神社誌に記載された 740 社を４種に分類した。
１楼門の記載がなく、楼拝殿が確認されないもの
２楼門の記載はあるが、楼拝殿ではないもの
３楼拝殿の記載があり、既往研究で楼拝殿として扱われているもの
４楼拝殿の記載がないが、既往研究で楼拝殿として扱われているもの
以上から、楼拝殿と楼門の分布が交わらないことがわかった。
本研究では先行研究で扱いのあった社殿を対象とした。

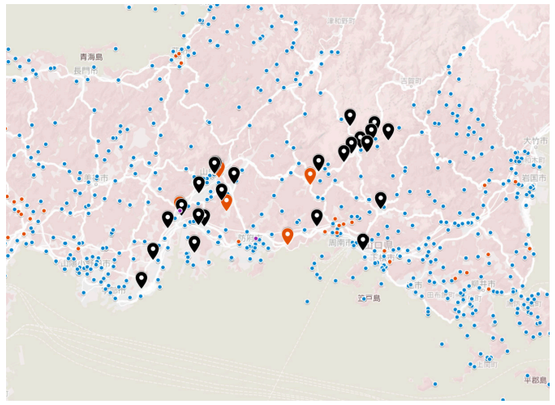

図３　山口県神社誌による分

調査方法

実地調査では、社殿の柱間寸法の実測、平面図の作成、各部要素の撮影、地域住民への聞き取りを行なった。
撮影した各部要素とは、澤田による研究で用いられた比較要素の中でもより多くの社殿を対象に取ることのできるものや、調査中に自ら発見したものを独自に設けた。

実地調査にて、主に現在の楼の存在や意識についてのヒアリング活動を行なった。
調査機関が秋祭りの時期であり、準備や祭が行われていた。
多く目にしたのは楼の屋根の修繕である。翼廊部が瓦葺きであるのに対し楼のみ茅葺のものもあり、雨漏りなどの対策を行っていた。
手間をかけて楼を保持することから楼のもつ特別な機能を推測したがそのようなことはなく、地域住民には楼拝殿が山口独自のものである意識はなかった。
また楼の内部に御神体や畳などはなく、上に上がる手段もない。あるものは張り巡らされた木組み程度であり、それをのぞかせる社殿もあった。
しかし、上方向への意識は高く、長野八幡宮では前面に本殿がありながらも、神が高いところにいるという。また社殿への誇りも強く、地域では大きな社殿であることを主張した。

比較要素の結果について、以下のようになった。

澤田論文による要素

・正面向拝の形状

幅広い年代に確認された片流れ向拝に、最新のものが検出された。比較的大型の社殿に見られた。切妻造の唐破風は小型で新しい社殿に見られた。

・拝殿内の床形状

既往研究では凸状の床板を持つとされたが実際は床板が外され楼門となっていた社殿が 1 棟検出された。

独自に設けた要素

・垂木形状

多くの屋根が平行垂木を持った。扇垂木のものには楼造、楼造風どちらも存在し、19 世紀ごろのものであった。

・礼拝空間との位置関係

楼拝殿の楼門要素については後述するが、礼拝空間を本殿側に持つ楼拝殿は楼門に近い傾向がある。また多くが楼の壇床板を持たない。楼拝殿手前に礼拝空間を持つもののなかには、内部にもう一つ礼拝空間を持つものもあった。

・屋根形状

楼部は多くが平入りの入母屋屋根であるが、妻入り入母屋屋根や、平入り妻切屋根のものも見られた。時代による傾向は無いと思われる。

・拝殿、本殿、幣殿との接続方法

接続は古いものほど疎で、新しいものほど密という傾向が考えられる

結果を（表 1 ）の様に記号化しまとめた。

西から東

	既往				調査					
神社名	床高	楼柱割	向拝	開口	接続	参拝位置	中央	楼部	垂木	恵方板
南方八幡宮	▲	●	●	-	●	●	■	●	●	
北方八幡宮	▲	●	▲	▲	★	●		●	●	
嘉川八幡宮	●▲	●	●	-	●	●		●	●	●
中領八幡宮		●	▲	-	■	▲		▲	●	
厳島神社		-	▲	-	■	●▲		▲	●	▲
正八幡宮	▲	▲	▲	●	★	●		●	●	▲
春日神社		-	▲	●	■	▲		▲	●	
黒山八幡宮	●	●	▲	●	■	▲	▲	●	●	
朝田神社　拝殿	●	-	●	●	■	▲	■	■	▲	
朝田神社　楼門	▲	-	●	-	-	-		■	●	
今八幡宮	●	●	●	▲	▲	▲	■	●	●	
八坂神社	●	-	●	-	■	▲	●	■	●	
古熊神社		●	●	●	▲	▲		●	●	
北辰妙見社		-	●	-	■	▲■		▲	▲	
長野八幡宮	●	-	●	-	■	▲	■	■	●	
日吉神社	●	▲	●	■	■	▲■	■	●	●	
鰐鳴八幡宮	●	●	▲	●	▲	▲●	■	●	●	
防府天満宮	▲	-	▲	-	★	●		●	●	
鷲原八幡宮	▲	●	●	-	▲	■		●	●	
国津姫神社		-	▲	-	■	▲■		▲	●	●
花尾八幡宮		-	▲	-	■	▲		▲	■	
串八幡宮		-	▲	-	■	▲		▲	●	
河内神社(米光)		-	▲	-	■	▲		▲	▲	
鷹飛原八幡宮	■	▲	▲	-	■	■	●	●	■	
熊野神社		-	■	-	■	■	▲	▲	●	
三島神社		-	■	-	■	▲■	●	▲	●	
二所山田神社	■	-	▲	-	■	▲		▲	●	
菅原神社		-	▲	-	■	▲		▲	●	
河内神社(鹿野)		-	■	-	■	▲		-	-	
氷見神社		-	■	-	■	▲●		▲	●	
寶作神社		-	▲	-	■	▲		▲	●	
佐賀居河内神社		-	▲	-	■	▲	-	▲	●	
多賀神社		-	●	-	■	▲■		-	▲	
遠石八幡宮		●	●	-	■	▲		●	●	
飛龍八幡宮		▲	▲	-	▲	▲		●	■	●
菅原神社		-	■	-	■	▲		▲	■	

表 1 要素による分類

また、調査で作成した配置図、平面図、平面詳細図、各部写真などをまとめた拝殿カードを作成し、比較に用いた。

第３章　考察

楼拝殿建築の伝播についての考察

要素の比較により得られた結果を、プロットにより地域的な傾向を可視化することで、楼拝殿文化の展開について考察した。

楼拝殿は正式な建築用語でないため、資料では楼門か拝殿のどちらかで記載されることが多い。楼拝殿が一般的な解釈で楼門と拝殿に分類されそれらの特徴から楼門的 / 拝殿的要素を探る。

「重文目録」、「防長寺社由来」、「防長風土注進案」、「山口県神社誌」の 4 資料による名称の比較を行なった。

結果は (表 2) となり、主に

①すべての資料で楼門の扱いを受ける社殿

②すべての資料で拝殿の扱いを受ける社殿

③資料によって扱いの異なる社殿

④楼拝殿（楼門造、楼拝殿造）の記載のある社殿

の 4 種に分けられた。

		澤田　判定	藤沢　判定			判定
	神社名		重文目録等	防長寺社由来	防長風土注進案	山口県神社誌
1	南方八幡宮	楼門・楼造	楼門　左右翼廊	楼門 丁の屋	楼門 左右廊ノ屋	楼門
2	北方八幡宮	楼門・楼造	楼門　左右翼廊	郎門　長ノ屋	楼門 廊の屋	楼門
3	嘉川八幡宮	楼門・楼造	楼門　左右翼廊	楼門 丁の屋	楼門 左右廊ノ屋	楼門
4	中領八幡宮	拝殿・楼造風	拝殿　左右翼廊	拝殿？舞殿？	拝殿	拝殿・楼門造
5	厳島神社	拝殿・楼造風	拝殿　左右翼廊	拝殿？舞殿？	拝殿？	拝殿
6	正八幡宮	楼門・楼造	楼門　左右翼廊	楼門 廻廊	拝殿 向拝	楼門・翼廊
7	春日神社	拝殿・楼造風	拝殿　左右翼廊	舞殿？	舞殿	楼門
8	黒山八幡宮	拝殿・楼造	拝殿　左右翼廊	廊門	楼門	楼門
9	朝田神社　拝殿	拝殿・楼造風	拝殿　左右翼廊			拝殿
10	朝田神社　楼門	楼門・楼造風				楼門
11	今八幡宮	楼門・楼造	楼門　左右翼廊	楼門 左右蝶ノ屋 車寄	楼門 左右廊屋	楼門（左右翼廊付）
12	八坂神社	拝殿・楼造風	拝殿　左右翼廊	楼門	楼門 車寄 東西廊屋	楼門（左右翼廊付）
13	古熊神社	楼門・楼造	拝殿　両翼	楼門 左右蝶ノ屋	楼門 車寄 廊屋	拝殿（重層楼門造）
14	北辰妙見社	拝殿・楼造風				-
15	長野八幡宮	拝殿・楼造風	拝殿　左右翼廊	拝殿？	舞殿	拝殿
16	日吉神社	拝殿・楼造	拝殿　左右翼廊	拝殿？	拝殿（楼門造）	拝殿（二階楠四坪）
17	鰐鳴八幡宮	拝殿・楼造	拝殿　左右翼廊	楼門	拝殿	惣拝殿・楼門（楼門造）
18	防府天満宮			楼門？	楼門？長ノ屋？	楼門
19	鷲原八幡宮	楼門・楼造				
20	国津姫神社	拝殿・楼造風				拝殿（楼拝殿造）
21	花尾八幡宮	拝殿・楼造風	楼門　左右翼廊	拝殿？	拝殿	惣拝殿（楼門造）
22	串八幡宮					拝殿
23	河内神社(米光)					拝殿
24	鷹飛原八幡宮	拝殿・楼造				左右蝶屋
25	熊野神社	拝殿・楼造風				拝殿
2	三島神社	拝殿・楼造風	拝殿　左右翼廊	舞殿？	拝殿？	拝殿
27	二所山田神社	拝殿・楼造風	拝殿　左右翼廊	神供所？	拝殿？	拝殿
28	菅原神社	拝殿・楼造風	拝殿　左右翼廊			図）拝殿
29	河内神社(鹿野)					拝殿
30	氷見神社					拝殿
31	寶作神社					拝殿
32	佐賀居河内神社					拝殿
33	多賀神社					拝殿
34	遠石八幡宮					拝殿
35	飛龍八幡宮	拝殿・楼造	拝殿　左右翼廊	拝殿？神楽所？	庁屋？	長庁
36	菅原神社					
	吉部八幡宮　楼門	楼門	楼門	楼門	楼門	
	多賀社			楼門　蝶ノ屋	楼門 車寄 東西廊屋	
	中郷八幡宮			楼門　左右長の屋	楼門　両袖	
	繁枝八幡宮					
	剣神社			拝殿（楼門作り）	拝殿（楼門造）	

表２　名称による比較

これらと前章の要素を比較すると、楼門は「山口市南部に集中」「古い社殿」、「社殿を通り抜けた先に礼拝空間」

拝殿は、「周南市北部に集中」「幣殿・釣屋に接続している」「社殿の手前に礼拝空間」といった特徴がわかった。

各要素のプロットを用いて比較する。

澤田論文による要素

・楼造 / 楼造風の分類

山口市域沿岸部に楼造が多く、周南市域内陸部に楼造風が集中している。これは楼門 / 拝殿の分布に近い傾向がある。

・正面向拝の形状

山口市に片流れ屋根、山口市周南市の中部に向唐破風屋根、周南市山間部に切妻造が集中している。

・拝殿内の床形状

山口市街地に凸字状の楼の壇床板が確認され、山口市南部は床板の外されたものが多かった。周南市内陸には平面の床板が多い。

独自に設けた要素

・垂木形状

周南市域沿岸部に立地する数社が、特殊な扇垂木を持った。

・礼拝空間との位置関係

楼拝殿を通り抜けた先に礼拝空間を持つものは西に多く、資料では楼門の扱いを受けた。これらに床板はない。

・拝殿、本殿、幣殿との接続方法

接続は古いもの、西のものほど疎で、新しいもの、東へ行くほど密であった。

楼拝殿の定義

既往研究の整理と調査の結果、楼拝殿とされる社殿に共通する要素から、以下の定義を設けた

機能を持たないくとも、拝殿中央に突出した楼部を設ける。中央の 4 本の柱が楼を支持することは全社殿で共通である。楼の壇の床板　床板のない社殿はどの資料にも楼門とされ、先祖返りの様な現象とも考えられる。

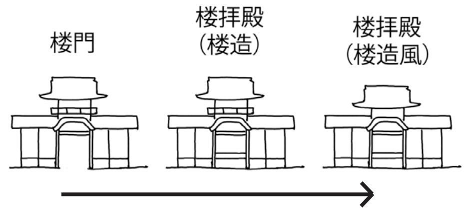

図 4　楼門の展開

楼拝殿の提案

楼拝殿の分布域と形状の特徴から、既往研究での扱いのない 4 棟の楼拝殿を新たに検出した。。

楼拝殿の地理的要素と形状の定義から、その評価を行う。

【串八幡宮】

楼造風の楼拝殿であり、平坦な床板や向唐破風造の向拝など地域的特徴と合致した。瓦葺きの翼廊に対して楼の屋根は茅葺が維持されており、楼への意識を伺うことができる。

図 5　串八幡宮正面

【菅原神社】

楼造風の楼拝殿である。楼部垂木の形状は山陽道沿いの沿岸部に見られた扇垂木をもち、楼拝殿文化が山陽道に沿って展開したことがうかがえる。小型で、楼の平面形式が長方形という特徴を持っていた。

また既往研究で扱われた最東端の社殿のおよそ 10km 東に位置し、光市からの検出は初と思われる。楼拝殿文化の影響した可能性のある範囲が拡大した。

図 6　菅原神社正面

【多賀神社・河内神社】

これらは拝殿中央部が突出していたために楼拝殿の類と疑ったが、楼部を支える柱は中央の 4 本でなく母屋に接続した垂直材であった。楼造風風の社殿ため、既往研究と同列の楼拝殿とすることはできない。

しかし、楼拝殿の多く分布する地域の深部に位置し、楼様の突出に役割のうかがえないことから、楼拝殿の意匠を受けたものと考えられる。もっとも小型で簡素なものであった。（図　）のような図式が成り立つことも考えられる。

図 7・8　　多賀神社・河内神社

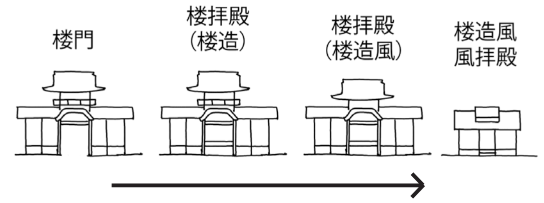

図 9　楼門の展開予想

第 4 章　結論

楼拝殿とは

建築的には、楼の壇に床板、拝殿中央に突出した楼部を設け、中央の 4 本の柱で支持する楼造建築である。

文化的には、住民は楼を地域特別のものと思わないが、祭前に補修を行うなど楼への意識を持っている。

参考文献・図版出典

山口県神社誌編纂委員会「山口県神社誌」1998

内田伸「山口地方独特の神社建築〈楼拝殿造り〉」1980

藤沢彰「山口地方の楼拝殿とその祭儀について」1988

佐藤正彦「祭祀施設としての宇佐神宮南中楼門　九州における楼拝殿造の一考察」1994

澤田亨「周防 , 長門 , 石見の楼拝殿の研究 - 楼拝殿の構造細部と細部意匠について -」1998

中川明子 , 大來美咲「周南市内の楼拝殿に関する研究」2014

図 1~9　著者作成

表 1,2　著者作成